



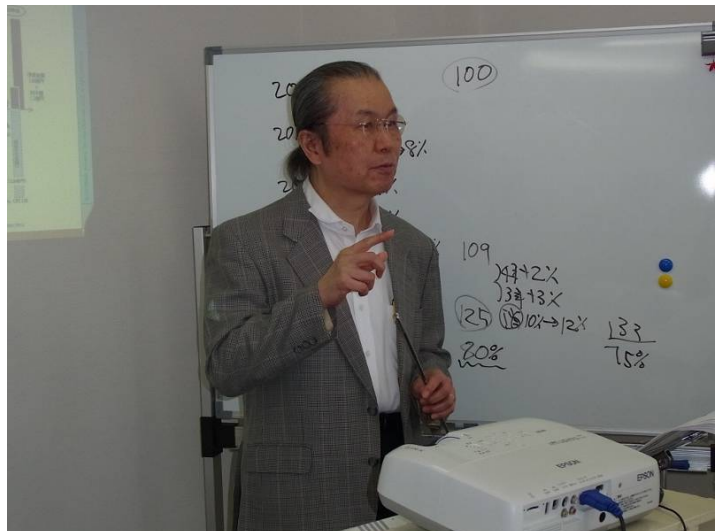
驚くほど簡単な退職金運用

講演: 岡本 和久

レポーター: 川元 由喜子

運用の目標を、「購買力の維持」ということに置いて資産運用を見直してみましょう。今後の物価がどうなるかはわかりませんが、年 2% が政策目標となっている事や、数回にわたる消費税の引き上げだってあるかも知れないことを勘案すると、10 年ぐらい後には、今より物価が 25% や 30% 高くなる可能性だってあります。働いている人は、給料でそれなりにヘッジされています。しかし、退職者が持っている資産の価値は、物価が 25% 上がれば、今ある資産の価値は 80% に減ってしまいます。そこで退職金運用の目的を、「リターンを上げる」から「価値を防衛する」へ切り替えて行かなければならないのです。

具体的に言うと、退職した人(収入より支出の多い人)が資産を増やしながら取り崩していく「資産活用」の場合の心得は、購買力を維持するために、少なくとも物価上昇率並みに資産を殖やすこと、それから大きな損失を被らないようにすることです。



ポートフォリオ構築の際のお勧めは、まず、物価連動債を組み入れた投資信託に全額を投資し、そして、その一部を、時間をかけながら世界の株式を買っていく、という方法です。物価連動国債は、元本が全国消費者物価指数に連動する利付債券で、持っている物価に対してのヘッジになります。物価水準が下がると元本も利払いも減りますが、物価も下がっているわけですから、生活するという意味では問題ありません。(2013 年から発行される物価連動国債は元本保証が付くことになったと伝えられています) 日本ではこの債券は、個人投資家には販売されていませんが、これを組み入れた投信は買うことができます。

世界の株式を買うというのは、我々の生活を支えてくれている、世界中の産業や企業の生産設備を保有するということです。この発想は、物価という点から見ても安心につながります。世界の産業・企業のどこかにインフレ利得が発生すれば、最終的には配当金か資産価値の増加を通じて株



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

主に還元されるからです。成長の観点からも、世界経済の成功を取り込むことができますし、ヘッジ無しで買えば、為替の変動による購買力の変化にも対応できます。

買い付け方の基本は積立投資です。積立投資には、定株数投資法(CS)やドルコスト平均法(DCA)、そしてバリュー・アベレージ法(VA)などがあります。VA法はあまり一般には知られていませんが、DCA法が定期定額に買い付けるのに対し、VAは、時価残高が予め定められた金額(バリュー・パス)になるように、定期的に資金を投入していく方法で、DCAよりさらに安い時に多く、高い時に少なく買うという効果が得られます。毎期の投資額が大きく振れることもあるので、退職金のようなまとまった資金のある人に適しています。

講演ではこの後、何年ぐらいかけて投資するのが適当か、またどのくらいの頻度で買うのが良いのか、ライフステージの問題やマーケット・サイクルの分析を交えてお話しいただきました。また、物価連動国債を組み入れた投資信託や、世界の株式を買うインデックス・ファンドなど、具体的な商品の紹介や、VA法による買い付けの手順、積み立て効果のシミュレーションなど、実践的に解説していただきました。